

# 令和8年第1回市議会定例会代表質問一覧表

1 日 時 令和8年3月4日(水) 午前9時30分

2 質問者 (質問順)

- |              |     |           |
|--------------|-----|-----------|
| (1) 新緑水クラブ   | 30分 | (1 富田博巳)  |
| (2) 市友会      | 30分 | (2 佐藤友昭)  |
| (3) 公明党      | 30分 | (3 石丸喜久雄) |
| (4) 日本共産党議員団 | 30分 | (4 坂 ゆかり) |

3 質問事項、要旨及び項目

質 問 者	1 富田博巳議員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 市政運営の基本姿勢について	1 市政運営の基本姿勢及びこれまで掲げてきた3つの重点施策の進捗状況や成果について問う	(1) 市政運営の基本姿勢及びまちづくりにかける思い等はどのようなものであるか (2) 令和8年度施政方針における市政運営の基本姿勢の継続性の観点から、これまで掲げてきた3つの重点施策の進捗状況や成果について、どのように考えているか	
2 物価高対策及び経済見通しについて	1 物価高対策により見込まれる効果及び経済見通しを踏まえ、懸念される税収への影響について問う	(1) 物価高対策により見込まれる効果について、どのように考えているか (2) 経済見通しを踏まえ、懸念される税収への影響について、どのように見込んでいるか	
3 本市を取り巻く状況について	1 不透明な経済見通しの中、今後の行財政運営の方針等について問う	(1) 先行きが不透明な経済見通しの中、行財政運営の方針について、どのように考えているか (2) 今後、5年間の市債償還金の見込額の推移はどのようなものであるか (3) 日本福祉大学東海キャンパスの拡張に伴う本市のまちづくりへの影響について、どのように考えているか	
4 子ども・子育て分野について	1 都市宣言やベビーファースト宣言を踏まえた子ども・子育て分野に関する情報発信について問う	(1) 様々な子育て支援が行われている中、ライフステージや困りごと等に応じて、子育て世代等がわかりやすく、子育て情報や支援内容を知ることができる必要があると考えるが、どのように考えているか	
	2 学校教育の更なる充実に向けた取組について問う	(1) 児童数の増加に対応するための加木屋小学校の整備計画の概要及び方向性について、どのように考えているか (2) スクールソーシャルワーカーの配置によるこれまでの成果及びフルタイム勤務とすることによる効果並びに将来的な増員について、どのように考えているか (3) 学校生活支援員の配置による効果及び学校規模に応じた配置について、どのように考えているか	

5 環境・経済分野について	1 「東海市ブランド」の立上げに向けた取組について問う	(1) これまで取り組んできたブランドづくりや観光振興に関連する事業成果及び課題について、どのように考えているか (2) 「東海市ブランド」の新たな立ち上げとふるさと納税の返礼品の魅力向上の関連性について、どのように考えているか	
	2 農業振興に向けた取組について問う	(1) 営農継続支援補助事業について、新たに補助対象に加える暑さによる農作物被害を防ぐための資材について、具体的にどのように考えているか (2) おにぎりサミットで発表したオリジナルおにぎりを日常的に市内で食べることができる環境を整備することで、フキの普及啓発や市民のシビックプライドの向上等につながると考えるが、今後の展開についてどのように考えているか	
6 地域づくり分野について	1 誰もが活躍できる地域共生社会の実現に向けた取組について問う	(1) コミュニティを中心とした地域運営体制づくり事業の成果と課題について、どのように考えているか。また、モデル事業の他コミュニティへの波及状況はどのようなものであるか (2) コミュニティを中心とした地域運営体制づくりと地域福祉としての各種事業との連携について、どのように図られ、推進されているのか (3) 退職後のライフプランにおける社会とのつながりに関する出前講座について、退職年齢が引き上げられていることから、退職前から社会とのつながりを持ってもらうことで地域の担い手の確保等につながると考えるが、どのように考えているか	
7 健康・生涯学習分野について	1 大田バスケットボールパークの整備に合わせた取組について問う	(1) 多世代が集い交流するためには、定期的な練習会や大会の開催等のきっかけ作りが必要と考えるが、どのように考えているか	
	2 クリエイターの育成を目的とする映像制作を学ぶワークショップ等について問う	(1) ワークショップ開催後の参加者との関わり方について、どのように考えているか (2) 創造の杜交流館の更なる活用について、小中学生、高校生及び大学生へのアプローチをどのように考えているか	

8 安心安全・都市基盤分野について	1 加木屋中ノ池駅の整備に合わせた循環バスのダイヤ・ルートの変更及びより使いやすく 便利な公共交通の実現に向けた今後の見直しの考え方について問う	(1) 鉄道駅を中心とした便利で快適なまちづくりを進める中、令和8年秋頃に完成する加木屋中ノ池駅南口の駅前広場に合わせたバス停の設置に伴うダイヤ・ルートの変更をどのように考えているか。また、より使いやすく便利な公共交通の実現に向けた今後の見直しを検討するために、どのような調査を実施するのか	
	2 住まいに関する施策について問う	(1) 新たな補助制度の概要及び補助対象とする空き家の定義はどのようなものであるか (2) 移住・定住促進に加え、公益性のある活動をしている団体等が空き家を利活用することで、地域コミュニティの活性化等にもつながると考えるが、この視点についてどのように考えているか	
9 行政推進項目について	1 効率的・効果的な行政経営に向けた取組について問う	(1) 書かない窓口の取組内容はどのようなものであるか (2) 利用者目線に立った庁舎1階ホールの改修に向けて、利用者の声をどのように反映していくのか	

質 問 者	2 佐藤友昭議員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 市政運営の基本姿勢について	1 令和8年度施政方針において、人口減少社会、物価高騰、国際情勢の不透明化といった厳しい社会環境の中にあっても本市の未来を見据えた力強い決意を示されたことに、一定の評価をするものである。一方で、今後の市政運営においては、「何をやるか」だけでなく、「それによって市民の暮らしがどう変わるのか」、その実効性がより強く問われる段階に入っているが、今後の市政運営の基本姿勢について問う	(1) 人口構造の変化が進む中、本市が人口規模を維持し続けてきた要因をどのように分析しているのか (2) 多様化・高度化する市民ニーズに対し、迅速かつ的確に対応するため、今後どのような市政運営を進めていくのか	

<p>2 子ども・子育て分野について</p>	<p>1 本市は、これまで「子育てするなら東海市、日本一子育てしやすいまち」を掲げ、保育環境の整備、経済的負担の軽減、教育環境の充実等、ハード・ソフト両面から子育て施策を推進してきている。その結果として、民間調査機関による子育てしやすい自治体ランキングにおいて、県内3位という評価を得ていることは、これまでの取組の成果であると考えているが、将来にわたって子どもと子育て世代が安心して住み続けられるまちづくりにどう結びつけていくのか考えを問う</p>	<p>(1) これまでの子ども・子育て施策の成果を、現時点でどのように総括しているのか  (2) 令和8年度から新設される5歳児健康診査は、子どもの特性への早期支援の観点から重要な取組であると考えているが、この健診を保健・福祉・教育の各分野がどのように連携して、切れ目のない支援に繋げていくのか。また、保護者の不安軽減にどう結びつけていくのか  (3) 屋内こども遊び場の整備や学校支援体制の強化は、子育て世代の定住意識にも大きく影響すると考えるが、これらの施策を通じ、子育て世代の定住・人口維持にどのような効果を期待しているのか  (4) スクールソーシャルワーカーのフルタイム配置や学校生活支援員の配置により、教員の負担軽減と教育環境への影響についてどのように考えているのか</p>	
<p>3 環境・経済分野について</p>	<p>1 ゼロカーボンシティ実現に向け、94の公共施設の照明のLED化や次世代自動車購入補助の拡充、「SAF（サブ）」の普及を見据えた廃食用油回収の強化等、脱炭素の取組の推進、及び「東海市ブランド」を新たに創出し、商業・農業・観光を横断した産業振興を図り、環境と経済の好循環による賑わいと活力あるまちづくりを進める取組について問う</p>	<p>(1) 令和8年度は、94の公共施設の照明のLED化完了や次世代自動車購入補助の拡充等、脱炭素に向けた取組が大きく前進するが、これらの取組を市民や事業者の行動変容につなげるため、どのような工夫を行っていくのか  (2) SAFやグリーンステールを活用した先進的な取組は、本市の環境施策の象徴となり得ることから、これらの施策を通じて、環境都市としてどのような都市イメージを確立していくのか  (3) 商業・農業・観光を含めた「東海市ブランド」を新たに立ち上げるため、新たな特産品開発のための組織をバックアップするとしているが、本市の強みをどのように磨き上げ、地域経済の活性化に繋げていくのか</p>	

<p>4 地域づくり分野 について</p>	<p>1 地域住民のつながりの希薄化や、多文化共生、孤独・孤立への対応は、今後ますます重要となる課題である。令和8年度は、コミュニティを基盤とした地域運営体制の支援、外国籍市民や外国人労働者への日本語支援、市内企業の従業員への退職後を見据えた社会参加の促進等、人と人とのつながりを軸とした施策が展開されるが、発展の方向性について問う</p>	<p>(1) 地域住民のつながりの希薄化が進む中、コミュニティを基盤とした地域運営体制づくりが進められているが、市は今後、地域に対してどこまで関与し、どのように自立した地域運営を支援していくのか  (2) 外国籍市民や外国人労働者が増加する中、日本語支援や交流施策が展開されているが、今後の取組と多文化共生を通じて目指す姿はどのようなか  (3) 孤独・孤立対策として、退職後の社会参加を促す取組が始まるが、出前講座による企業との連携をどのようにするのか。また、期待する効果はどのようなか</p>	
<p>5 健康・生涯学習 分野について</p>	<p>1 人生100年時代を迎える中、健康づくりや生涯学習の充実は、市民の生活の質を左右する重要な施策である。令和8年度は、歯と口腔の健康づくり推進条例の制定、RSウイルス感染症ワクチンの定期接種化、スポーツ施設の整備や創造の杜交流館の活用等、予防・学び・交流を重視した施策が進められるが、これらの施策を通じて、市民の健康寿命の延伸や生きがいづくりをどのように実感できる成果として示していくのか。また、今後の評価と発展の方向性について問う</p>	<p>(1) 歯と口腔の健康づくり推進条例の制定は、予防重視の健康施策を進める上で重要な取組であるが、条例制定により、市民にどのような変化を期待するのか  (2) RSウイルス感染症ワクチンの定期接種化は、子育て世代にとって大きな安心材料となるが、今後の感染症の感染予防及びまん延防止策をどのように充実させていくのか  (3) 大田バスケットボールパークが整備されるが、どのような施設で今後どのように活用していくのか  (4) 創造の杜交流館の開館により、交流や学びの場が広がっているが、この施設を生涯学習の促進や地域の一体感の醸成にどう結びつけていくのか</p>	

<p>6 安心安全・都市基盤分野について</p>	<p>1 防災・減災対策や生活安全・交通安全対策を進め、安心して暮らせる環境整備を図り、併せて快適で利便性の高い都市基盤の実現に向けた取組について問う</p>	<p>(1) 能登半島地震の教訓を踏まえ、貯留型マンホールトイレの整備や簡易トイレ用テント等避難所環境の改善を進めるとしているが、本市の避難所の環境をどの水準まで整えるのか。また、具体的にどの避難所にどの程度整備されるのか</p> <p>(2) 下水道管路の耐震化・長寿命化について、現在の耐震化率及び老朽管の更新の進捗状況はどうか。また、今後の整備計画はどのようなか</p> <p>(3) 名鉄加木屋中ノ池駅の南口駅前広場の供用開始や都市基盤整備の推進により、市民の移動環境は大きく変わるが、交通施策を通じて、どのような変化を目指すのか</p> <p>(4) 空き家対策と定住促進を組み合わせた支援制度が創設されるが、この制度により地域コミュニティの維持・再生にどのような効果を期待しているのか</p>	
<p>7 行政推進項目について</p>	<p>1 デジタル技術の活用により、効率的・効果的な行政経営を推進している中、「書かない窓口」の拡充や庁舎改修を通じ、市民サービスの利便性向上を図り、併せて体験型返礼品の充実や大学連携によるPRにより、ふるさと納税の拡大を進め、安定した歳入確保と市民サービスへの還元につなげる考えについて問う</p>	<p>(1) 「書かない窓口」の拡充をはじめ、デジタル化を進めているが、今後、デジタル技術を活用して行政サービスをどのように向上させていくのか</p> <p>(2) ふるさと納税については、体験型返礼品の拡充等、新たな展開が示されたが、寄附額増加を通じて市政運営にどのような好循環を生み出していくのか</p> <p>(3) 中長期的な健全財政を見据えた行政経営が求められるが、本市が考える持続可能な行政経営の基本姿勢はどのようなか</p>	

質 問 者	3 石 丸 喜久雄 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 物価高対策について	1 本市は、国の交付金を活用し、物価高対策の第1弾として、水道料金の基本料金の免除を令和8年2月から5月まで実施している。さらに第2弾として、30%のプレミアム率が付与された本市初のデジタル商品券を発行し、令和8年4月から商品券の申込を予定している。これらの施策の効果検証及び市民生活を最優先に考える取組について問う	(1) 水道料金の基本料金の免除について、市民からの反応及び評価をどのように把握しているか。また、その結果を今後の施策にどのように生かしていく考えか (2) 30%のプレミアム率を付与した商品券の発行については、紙媒体ではなく、スマートフォンのアプリを活用したデジタル方式を採用しているが、デジタル方式を選択した理由は何か (3) デジタル商品券の発行に当たり、スマートフォンを持っていない方や操作に不慣れな方への支援策等をどのように講じていく考えか	
2 本市を取り巻く状況について	1 アジア競技大会におけるカバディ競技の競技会場となることを踏まえ、大会に向けた機運醸成及びカバディ競技に親しみを持ってもらうための取組について問う	(1) カバディ競技の競技会場となることを契機として、市民の大会に向けた機運醸成及び誰もがカバディ競技に親しみを持てるようにするための取組状況はどのようなものか (2) アジア競技大会後の本市におけるカバディ競技の継続について、どのように考えているのか	

<p>3 子ども・子育て分野について</p>	<p>1 子ども・子育て分野において、新たに5歳児を対象とした健康診査の実施、保育園児の安全と快適な生活を守るための整備及び旧温水プールを活用した「屋内こども遊び場」の整備について問う</p>	<p>(1) 新たに5歳児を対象とした健康診査を実施するに至った背景及び目的は何か。また、具体的な実施内容と期待される効果はどのようなものか</p> <p>(2) 保育園の園庭への日よけネットの設置及びトイレへの扇風機や温便座の設置計画はどのようなものか。また、令和8年度中に未設置となる園がある場合には、計画を前倒しし、同年度中に設置することはできないか</p> <p>(3) 「屋内こども遊び場」の整備については、施設の全体像の計画が形になりつつあるとのことだが、施設の構成及びレイアウトはどのようなものか。また、単なる遊具の設置に留まらず、子育て世代の交流の場としての機能をどのように反映させていく考えか</p> <p>(4) 令和8年度に遊具体験会を開催するとのことだが、体験会ではどのような遊具を用意する考えか。また、遊具の選定に当たっては、安全性の確保に加え、発達支援や多様性への配慮をどのように図っていく考えか</p>	
<p>4 環境・経済分野について</p>	<p>1 環境・経済分野において、学校や保育園等、94の公共施設の照明のLED化、次世代自動車購入補助制度の拡充及び次世代エネルギーとして世界的に注目される持続可能な航空燃料、「SAF（サブ）」の普及等、2050年を目標としたゼロカーボンシティの実現に向けた取組について問う</p>	<p>(1) 学校や保育園等、94の公共施設の照明のLED化を令和8年度中に完了させるとのことだが、これにより見込まれるCO2排出量及び電気料金の削減効果はどのようなものか。また、本事業の総事業費及び財源構成はどのようなものか</p> <p>(2) 次世代自動車の購入補助について、補助対象を個人のみから事業者にも拡大し、補助制度を拡充するとのことだが、申請件数が想定を上回った場合の対応をどのように考えているか</p> <p>(3) SAFの普及に向けた協定の締結を契機として、家庭から排出される廃食油の回収・活用を促進するとのことだが、市民の行動変容を促すため、どのような周知・啓発を行う考えか。また、廃食油の年間回収量の現状及び施策実施後の目標はどのようなものか</p>	

<p>5 地域づくり分野について</p>	<p>1 地域づくり分野において、多様性を尊重し、だれもが活躍できる多文化共生社会、地域共生社会の実現に向けた取組、及び健康マージャン等を活用し、男性高齢者が地域に出て活動できる機会の創出を図る取組について問う</p>	<p>(1) 誰もが活躍できる多文化共生社会及び地域共生社会の実現に向け取組を進めるとのことだが、具体的な数値目標や成果指標を設定しているのか。また、部局横断による推進体制について、どのように考えているか</p> <p>(2) 近年、外国籍市民に対する不安や誤解、分断を助長する情報が社会的に広がる傾向が見受けられる。多文化共生社会の実現に当たっては、外国籍市民への支援策のみならず、日本国籍市民の理解促進及び相互尊重の意識醸成も重要と考えるが、どのような取組を進めていく考えか</p> <p>(3) 退職後、社会との接点が少なくなる男性高齢者の孤独・孤立が課題とされているが、その現状をどのように分析しているのか</p> <p>(4) 健康マージャン等を活用する目的は何か。また、健康マージャン等を単発事業で終わらせることなく、地域活動やボランティア活動への参加等へ波及させる仕組みをどのように構築していく考えか</p>	
<p>6 健康・生涯学習分野について</p>	<p>1 健康・生涯学習分野において、歯と口腔の健康づくりや新生児・乳児の感染・重症化予防等の健康施策の取組、また、本市のトップアスリートの活躍や大田バスケットボールパークの整備及び創造の杜交流館における各種事業の実績等、生涯学習施策の取組について問う</p>	<p>(1) 歯と口腔の健康づくりにおいては、乳幼児期から高齢期まで切れ目のない口腔保健対策が重要であるが、各世代に対し、どのような具体策を講じていく考えか。特に、歯周病予防やオーラルフレイル対策についてはどのような取組を進めていくのか</p> <p>(2) RSウイルス感染症のワクチン接種の対象者に対し、どのように周知及び接種勧奨を行う考えか。また、医療機関との連携や接種機会の確保に向けた具体的な取組はどのようなものか</p> <p>(3) ふるさと大使を務める実業団チームや、本市出身の木原龍一選手の活躍を契機に、「スポーツのまち」としての魅力を高めるとのことだが、どのように取組を進めていくのか。また、大田バスケットボールパークの整備に至った経緯と目的及び期待する効果はどのようなものか</p> <p>(4) 令和7年5月に開館した創造の杜交流館では、映画上映や各種講座等、様々な事業を実施しているとのことだが、現在までの実績はどのようなものか。また、今後の施設利用促進策をどのように講じていく考えか</p>	

<p>7 安心安全・都市基盤分野について</p>	<p>1 安心安全・都市基盤分野において、災害時に不可欠なトイレ機能確保策の推進、及び西知多道路（仮称）大田インターチェンジの整備について問う</p>	<p>(1) 災害時の避難所におけるトイレ対策を計画的に進めていくとのことだが、在宅避難者についても、下水道の機能停止によりトイレが使用できなくなる事態が想定される。携帯トイレの備蓄促進や注意喚起等、市民への啓発を含めた在宅避難者のトイレ対策をどのように進めていく考えか</p> <p>(2) 西知多道路（仮称）大田インターチェンジの整備スケジュールはどのようなものか。また、供用開始後における加家インターチェンジ及び横須賀インターチェンジの渋滞緩和への効果をどのように見込んでいるのか</p>	
<p>8 行政推進項目について</p>	<p>1 行政推進項目において、令和8年1月から開始した「書かない窓口」の推進及び庁舎1階ホールの改修に向けた取組について問う</p>	<p>(1) 令和8年1月から開始した「書かない窓口」の導入について、どのような効果があったか。また、令和8年度から転入・転居等の届出対象として拡充することにより、どのような効果を期待しているのか</p> <p>(2) 老朽化の進む庁舎1階ホールの改修に向けた準備を進めるとのことだが、どのような施設として整備していく考えか</p>	

質 問 者	4 坂 ゆかり 議 員 (日本共産党議員団)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 市政運営の基本姿勢について	1 人口減少社会、少子高齢社会に直面している中で、地域経済や行政サービスに与える影響について問う	(1) 65歳以上の高齢者の就業者数が増加しており、高齢者人口の増加が、労働力不足や国内市場の縮小等のマイナス面のみで捉えることは一面的ではないかと考えるが、本市における経済や行政サービスに与える影響をどのように危惧しているか	
2 物価高対策について	1 2026年2月から水道料金の基本料金の免除を5月まで継続して実施し、4月1日から予定していた水道料金改定の実施を6月まで2か月延期したことによる影響について問う	(1) 水道料金の基本料金の免除及び水道料金改定の実施時期の延期によって、世帯ごとのモデルケースではどのくらいの影響額があるか	
3 本市を取り巻く状況について	1 太田川駅西地区における100ヘクタールのまちづくりが大きく動き出し、春には商業施設が開業することから、太田川駅周辺の既存店舗への影響が懸念されるが、本市の考えを問う	(1) 更なるまちの活気とにぎわいが広がると述べているが、既存店舗から新しい商業施設へ人が流れる心配はないか	
4 子ども・子育て分野について	1 小学校への就学を迎える5歳児を対象とした新たな健康診査の実施について問う	(1) 新たに5歳児を対象とした健康診査を実施するとあるが、どのような資格を持った方が健康診査にあたるのか	
	2 学校教育における教育環境の質の維持・向上について問う	(1) 児童数が増加傾向にある加木屋小学校における教育環境の質の維持・向上のための整備とは、どのような内容か	
	3 複雑化・多様化する教育課題に的確に対応するため配置されている学校生活支援員について問う	(1) 各学校へ学校生活支援員を適切に配置するとしているが、現在の配置状況及び今後の配置計画はどのようなか	

5 環境・経済分野について	1 2050年を目途としたゼロカーボンシティの実現に向けた取組について問う	(1) 市が環境負荷の低減に取り組んでいることをアピールしているが、2027年までに一般照明用の蛍光灯の製造・輸出入が段階的に廃止されることを踏まえ、LED化の推奨を市民へ周知する考え及び方策はあるか	
	2 次世代自動車の購入補助について問う	(1) 補助対象を個人に加え、新たに事業者を追加しているが、補助対象となる事業者の要件はどのようなか	
6 地域づくり分野について	1 コミュニティを中心とした持続可能な地域運営体制づくりについて問う	(1) モデル地区となっている4つのコミュニティでの地域課題の解決や活力の創出につながる取組の事例を、どのように他のコミュニティに展開しているか	
	2 高齢者の交流の場や居場所づくりの拡充について問う	(1) 高齢者の交流の場や居場所づくりの拡充策として、健康マージャン等を活用するとあるが、健康マージャン以外はどのようなものがあるのか	
7 健康・生涯学習分野について	1 人生100年時代となる中、市民の歯と口腔の健康保持のための取組について問う	(1) 市民の歯と口腔の健康づくりの現状をどのように認識しているか。また、人生100年時代における歯と口腔の健康保持を進める上で、どのような課題があると考えているか	
	2 2025年に開館した創造の杜交流館が多くの市民に親しまれる施設となるための方策について問う	(1) 多くの市民や団体に活用してもらい、芸術や文化に触れることで心豊かな人材育成等のひとづくりを進めるため、どのような方策を考えているか	
8 安心安全・都市基盤分野について	1 市民の命と暮らしを守る防災・減災対策として、避難所以外のトイレ問題について問う	(1) 災害時に不可欠なトイレ機能を確保するため、貯留型マンホールトイレの整備や簡易トイレ用テントの確保を計画的に進めるとしているが、大規模災害の発災時、避難所の収容人数は人口の一部に限られ、在宅避難者や車中泊避難者がトイレを使用できないことも考えられることから、市民への災害に備えた啓発をどのように考えているか	

9 行政推進項目について	1 利用者目線に立った庁舎1階ホール改修に向けての取組について問う	(1) 庁舎1階ホールは、視覚に障がいを持つ方からは、暗いとの声があり、車椅子を利用する方からも狭いとの意見がある。改修に際しては、市民からの声をどのように反映させていくつもりか	
	2 花火大会の指定優先席を本格的にふるさと納税の返礼品とすることについて問う	(1) 花火大会の指定優先席について、ふるさと納税の返礼品とするのは何席か	